

藩報

きずな

仙台藩志会



修復なった瑞鳳殿・政宗公尊像

経ヶ峯

二〇二〇年（令和二年）中国軍事研究者として著名な花園大学名誉教授伊達宗義氏が九八歳で逝去された。宗義氏の祖父は四賢侯の一人と言われた宇和島

藩最後の藩主宗城の子宗敦である。宗敦は仙台十三代慶邦の世子として迎えられたが、戊辰戦争の責を問われ、慶邦とともにその座を追われた。後に宗敦は仙台藩知藩事、男爵になるが、その子が檀一夫の『夕日と拳銃』で知られる宗義氏の父伊達順之助である。

私は、二〇〇〇年『みちのくの指導者、凛たり』を出版したが、順之助をテーマにした章を設けた。宗義氏の著書も参考にしたのでご連絡すると、快く了解していただいた。それ以降、二〇年交流を重ねたが、お手紙は達筆で気品と風格を漂わせていた。東日本大震災の時は、心温まるお見舞いと励ましのお手紙をいただいた。新刊をお送りする都度、感想の言葉が添えられており、次の著作への意欲を湧き立たせてくださった。今年は宇和島開府四一〇年という記念すべき年である。戴いた手紙を見ながら、若き日に訪れた宇和島市や激動の時代を教養な運命を逞しく乗り越えられた宗義氏に想いを馳せる昨今である。

（仙台藩志会 会長 伊達 宗弘）



仙台藩志会副会長に就任して

仙台藩志会 副会長 大泉 康（道鑑）

私は今年四月に開催された令和六年度仙台藩志会（本会）の総会に於いて、長い歴史と輝かしい伝統を誇る本会の副会長の職を拝命し、誠に光栄なことと感謝するとともに、その責任の重大さに、身の引き締まる思いを致しております。

私事で誠に恐縮ではございますが、まず自己紹介がたがた私の本会へ入会する経緯について簡潔に説明させていただきます。

私は、東北大学薬学部で長い間薬学の教育・研究に携わってきた者です。

その主要な研究テーマの「天然界から認知症に有効な化合物の検索とその応用」を通して、大きな国家的な課題である認知症の克服に、少しでも貢献したいと努力して参りました。

一方、私の母の故大泉道鑑（淑子）は、仙台藩茶道石州流清水派宗家十世を継承した者です。そのため、十世道鑑は、古くから本会に入会しており、私（現在十一世道鑑）にも入会するように指示があり、平成十八年四月にそれを果たした次第です。

ところで皆様ご承知の通り、本会の設立の目的は、仙台藩々祖伊達政宗公を始め、歴代藩主の遺徳を顕彰奉賛して、その「歴史」と「文化」を広く社会に伝えることとあります。

そこで皆様の私に対するご要望は、主として本会の、「文化」の面のさらなる充実を図り、より魅力的な会へ発展するように尽力することであると思います。

役員の皆様特に、事務局会（幹部会）メンバーの先輩方は、全員手弁当ひとつで、本会の活動を通して社会に奉仕するという強い信念を持っておられます。

私は、この先輩方の生き方をよき手本にさせていただき、より活発に活動するよう頑張つて参ります。

私はもとより非力ではありますが、本会の発展のために、粉骨砕身し努力して参る所存ですので、皆様の温かいご指導と、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（東北大学名誉教授）

議事六 役員改選（案）
左記の上程通り異議なく役員改選案は承認された。

任期（令和六年四月～令和八年三月）

会 長 伊達宗弘

副会長 佐藤久一郎、桑折秀彦、大泉 康

専務理事 鈴木精義（総務部長兼務）

常任理事（○印部長、○印刷部長）

総務部○鈴木精義○水沼郁郎、佐藤靖夫

稗貫祐一、及川善和

広報部○大槻正俊、○榎戸通夫 佐藤富美子

秋山宏好、鎌田成子

事業部○柳沼宣洋、○屋代美香、佐藤鉄二

大友欣也

財務部○加藤吉男、○石母田正俊、村岡玲子

金田隆

儀典部○永山三男、○武者利樹、加藤 孝

相澤 武

文化部○澁谷まゆみ、○寺田美穂子、佐々木裕之、松葉徳壽、一迫万里

監 事 阿部伸一、河内安雄

理 事 相沢光哉、天野英克、伊藤賢司、岩 潤、遠藤文彦、大沼大名

岡 善男、木村勝好、佐藤芳郎

嶋貫重利、高橋直嗣、伊達華子

中沢幸男、中川 環、支倉正隆

芳賀明洋、宮城泉三、森 光正

梁川幸子、山田武彦、山家祥三

名誉顧問 村井嘉浩（宮城県知事）

郡 和子（仙台市長）

顧問 片倉重信、中村良幸、東海林恒英

佐藤憲一、平川 新、菅野正道

伊達元成、伊達宮子、伊達宗尚

瀬尾信雄 伊達啓公

参 与 土井 亨 庄子賢一 櫻井 充

遠藤隼人 渡邊 拓 村岡貴子

斎藤範夫 菊地崇良 高橋卓誠

猪股由美 千葉修平 西沢啓文

佐藤一郎 小山修作 眞幡善次

（ゴジックサイドラインは新任）

仙台藩志会総会（令和六年四月七日）

第二部

特別講演（十四時三十分）

『古代東北の源流』

講師 東北大学名誉教授 東北歴史博物館館長

阿子島 香氏

当日の講演内容は本誌「きずな」七十二号の四ページから五ページにかけて、講師をされた阿子島香先生の論文として掲載されておりますので、是非ご一読をお願いいたします。

第三部 日本舞踊演舞 十六時二十分

演題 『常磐津 鶴亀』

演者 直派若柳流常任理事

若柳 梅京氏

（仙台藩志会 麻生菜穂美）

第四部 交流懇親会（十六時三十分～十八時三十分）

参加者七十八名 新入会員十名出席

司会進行 屋代美香 常任理事

一、開会挨拶

二、会長挨拶

三、祝辞 佐藤 一郎 様

四、乾杯音頭発声 和田 修一 様

五、新入会者紹介

六、フリートークキング

七、閉会挨拶